

不安があるのは自然なこと　まずは知ることから始めませんか

外国人住民が地域で共に暮らす身近な存在となりつつある一方で、言葉や生活習慣の違いに戸惑いを感じることや、ごみ出しのルールなど、日常生活の中で気になる場面があるかもしれません。

昨年度に福島県が実施したアンケート調査報告書においても、そうした不安を持っている方が多くなっています。

こうした状況は、外国人住民に必要な情報が十分に届いていないことや、お互いに接する機会が少ないことから生じる場合もあります。知らないことが不安につながり、関わる機会が少ないことでさらに距離を感じやすくなる場合があります。

そのため、日本人と外国人住民がお互いに理解を深め、違いがあっても地域で安心して暮らしていくための環境を整えることが大切になります。

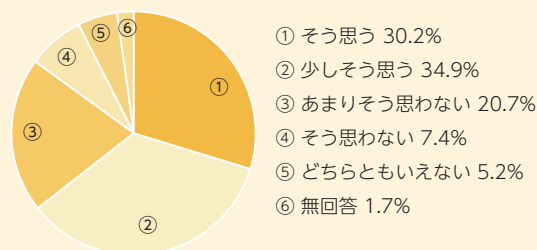
《令和7年度福島県多文化共生に係るアンケート調査報告書（抜粋）》

アンケートの詳細はこちら▶



●日本人住民対象

Q 外国人が増えることへの影響について「具体的な心配事はないが、外国人住民が増えることに漠然とした不安を感じる」と思いますか。

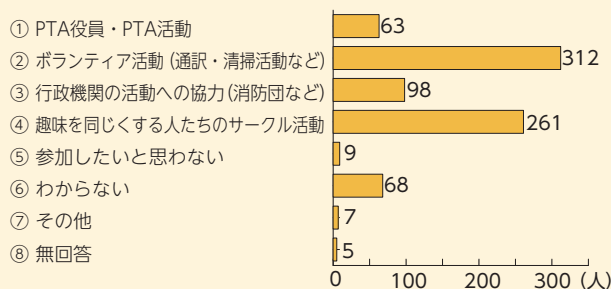


Q 偏見や差別をなくし、人権を守るためにはどのような取り組みや活動があるとよいと思いますか。

「外国人と日本人との交流の機会を増やす」が45.6%と最も多く、次いで「学校で外国人との共生に関する教育を充実させる」が36.1%となっています。

●外国人住民対象

Q 地域でどのような活動をやりたいと思いますか。（複数回答可）



Q 偏見や差別をなくし、人権を守るためにはどのような取り組みや活動があるとよいと思いますか。

「外国人の文化や生活習慣の周知」が39.7%と最も多く、次いで「外国人と日本人との交流の機会を増やす」が34.9%となっています。

日本人と外国人住民が共に安心して暮らせる環境づくりの指針となる「多文化共生推進プラン」の策定にご尽力いただいている菊池准教授に、多文化共生について話を伺いました。



近年、日本各地で外国人住民が増え、多文化共生は一部の地域だけの課題ではなく、私たち一人ひとりに関わる身近なテーマとなっています。多文化共生とは、単に外国人を支援することではなく、文化のちがいを認め合いながら、誰もが地域の一員として安心して暮らし、それぞれが力を生かして地域社会を築いていくことです。人口減少や少子高齢化が進む中、多様な人々が支え合い、協力しながら暮らせる地域づくりはますます重要になります。外国人住民も地域を支える大切な仲間です。地域交流や日本語教室、防災

活動などを通して、顔の見える関係を育むことは、安心して暮らせる地域づくりにつながります。言葉や文化のちがいに戸惑うこともあるでしょう。その背景には互いを知らないことがあります。あいさつを交わし、地域で顔を合わせる。そのよう日々の交流が信頼関係を育みます。

多文化共生の意義は、多様な人々がそれぞれの力を生かし、協働することで地域に新たな価値を生み出すことにあります。一人ひとりが身近なところから相手を知り、関わるうとすることこそが、地域の未来を創る第一歩となるのです。



多文化共生推進プラン策定委員会委員長
明星大学人文学部
国際コミュニケーション学科

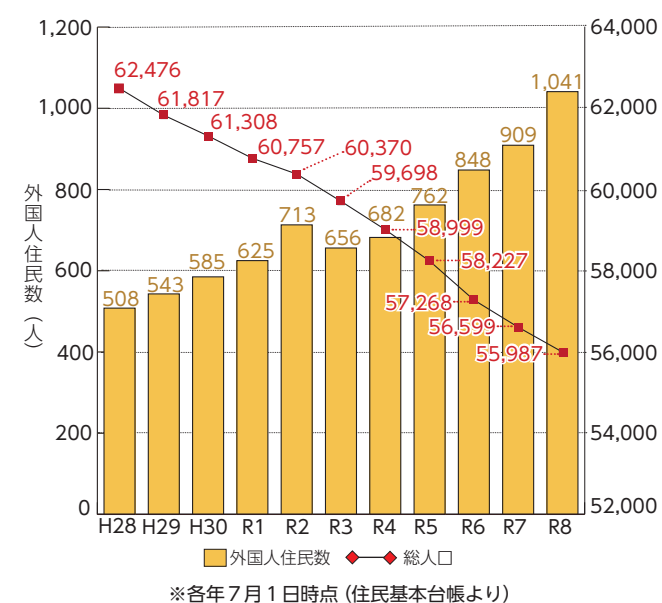
菊池 哲佳 准教授

特集 知ることから始まる 多文化共生のまちづくり

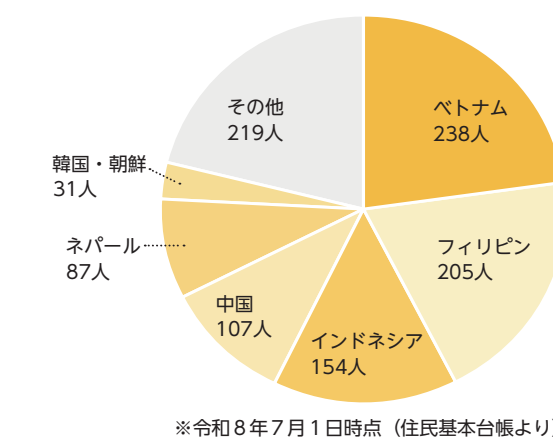


現在、本市には1,000人を超える外国人の方が暮らしています。およそ54人に1人が外国人住民であり、総人口に占める割合は1.86%と県内13市で最も高くなっています。

《本市の総人口と外国人住民数の推移》



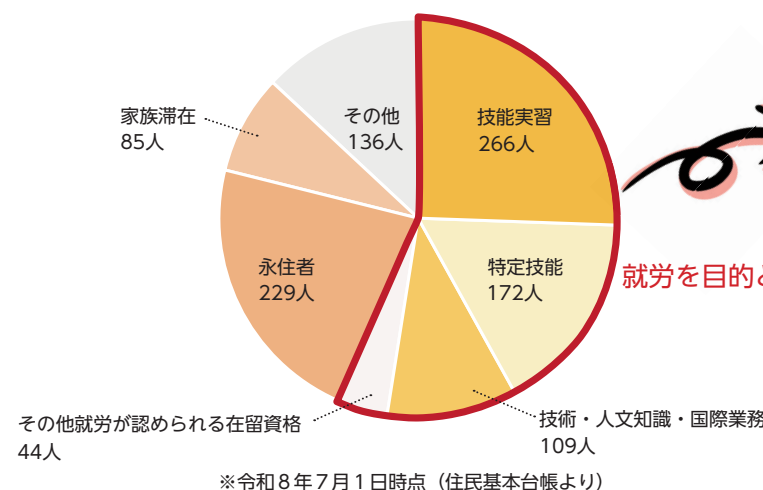
《本市の外国人住民の国籍別人数》



ベトナム、フィリピンなど東南アジアを中心に33の国と地域の方が暮らしています。

本市で暮らす外国人の方は、日本の企業で働きながら知識や技術を身に付ける「技能実習」や、製造業や介護など人材確保が困難な状況にある分野で、一定の専門性・技能を生かして働く「特定技能」など、就労目的の在留資格が5割以上を占めています。

《本市の外国人在留資格別人数》



就労を目的とした在留資格

多くの業種で人手不足が深刻化する中、本市の地域産業を支える貴重な人材として、多くの外国人の方が活躍しています。



多文化共生の第一歩は、身近なところにあります

地域で外国人の方と交流する取り組みが増えており、言葉や文化の違いがあっても、同じ地域で暮らす方同士、顔を合わせることで、相手をより身近に感じられる場となっています。

地域での交流の機会が増えることは、お互いの理解を深めるきっかけになります。「どんな人が暮らしているのか」を知ることは、不安を減らし、安心して暮らせる地域づくりにもつながります。

菜の花まつり

4月18日、東野出島地区で開催され、同地区の㈱サイゼリヤ福島工場で働くベトナムの方10名が、スタッフとしてイベントを一緒に盛り上げました。



初めて菜の花まつりに参加しました。当日は焼き鳥や飲み物、そばなどを売りました。地域の皆さんと交流できて楽しかったので、また機会があったら参加したいです。



ニュアンさん ヴァンさん



野出島地域活性化プロジェクト
本宮 直さん

地域で暮らす外国人の方に、初めてイベントの運営を協力していただきました。最初はなじんでもらえるか心配していましたが、会場準備から片付けまで一緒にいき、あいさつも積極的にしてくれました。楽しみながら活動してもらえたと感じています。

この交流は、東地域の魅力を外国人の方に知ってもらえるまたとない機会であるとともに、ボランティアで参加していた中学生にとっても、良い経験となりました。何かを共にすることで、交流も深まると思います。今後も地域のイベントに参加してもらえたらうれしいです。



ひなたで芋ほり

7月12日、多世代交流の一環として、田舎の小さな居場所「こたら」(双石)の主催で行われました。㈱みちのく白河農園や(有)深花園で働くモンゴルやベトナムの方10名が参加し、地域の方と芋ほりを楽しみました。

初開催のイベントでしたが、普段なかなか接する機会がない外国人の方と話せて、うれしく思います。実際に交流してみると、言葉の違いはあっても同じ地域で暮らす仲間として、自然に接することができました。

3月にも町内会の清掃活動に参加していただいております。今後もいろいろな場面で交流を深めていけたらと思います。



田舎の小さな居場所「こたら」
大橋 勝男さん

芋ほりがとても楽しく、時間が経つのがあっという間でした。町内会の清掃活動でも地域の方とお話ししましたが、交流はいつも楽しいです。

8月の白河関の踊り流しにも参加するので、地域の方と交流できたらうれしいです。



できることから少しずつ 安心して暮らせるまちを目指して

多文化共生は、何か特別なことを始めるわけではありません。例えば、外国人の方とまちで会ったときにあいさつを交わす、分かりやすい言葉で伝えるなど、小さな行動がお互いに安心して暮らせる地域づくりにつながります。

言葉や文化が違くと、最初は距離を感じることもあります。しかし、実際に顔を合わせ、やり取りを重ねることで、見え方が変わることもあります。

外国人住民は、地域の社会経済を共に支えている仲間です。「知らない相手」ではなく「同じ地域で暮らす住民」として知ることが、多文化共生の第一歩になります。

企画政策課企画調整係 ☎(28)5500

地域のルールを伝えることで安心の輪が広がります

誰もが安全で安心して暮らせる地域をつくるためには、日本人も外国人住民も同じまちの住民として一人ひとり地域ルールを知り、きちんと守ることが欠かせません。そのうえで、お互いの違いを少しずつ理解し、思いやりの心を持って接することが、住みよいまちづくりの第一歩となります。

本市や市国際交流協会では、生活習慣の違いによるトラブルを未然に防ぎ、外国人住民がスムーズに地域に溶け込めるよう、日本の言葉や文化、生活マナーなどを学ぶ機会を提供しています。



日本語教室

日本語教室には、仕事や生活などのため、さまざまな国籍の外国人の方が通っています。

授業では、講師のほかに、中・高校生や大人のボランティアが外国人の方をサポートしており、交流の場にもなっています。



日本語を覚えたいと思い、教室に参加しています。先生やボランティアの皆さんがとてもやさしいので、毎回の教室がとても楽しみです。インターネットを使い自分でも日本語を勉強しています。日本語をもっと覚えて、いろいろな人と交流したいです。



アンディカさん ウェンピさん



古澤 莉緒さん 眞田 夏希さん 小田 しほりさん

中学生の時にフランス・コンピエーニュ市への派遣事業に参加したことがきっかけで、外国の方との交流に興味を持ち、日本語教室のボランティアに参加しました。

初めは不安でしたが、参加している外国人の方はとてもやさしく親しみやすいので、身構えて話す必要はないんだなと感じました。

これからも、このような活動に積極的に参加したいです！

日本文化・生活マナー講座



日常生活に身近なテーマである、ごみの出し方や自転車の乗り方、図書館の利用案内のほか、災害・緊急時の対応としての防災講座などを実施しています。

また、呈茶やだるまの絵付け体験、年賀状作成などを通して、日本や白河の文化も学んでいます。

バスの乗り方教室の様子▶



その他の本市の主な取り組み

●外国人住民向けの生活ガイドブック

外国人住民が生活するうえで、その地域の文化やルールを正しく知ることが大切です。

日常的な暮らしのことから災害・緊急時の対応など、生活に必要な情報やルールなどを伝えるガイドブックを作成しています。

●多文化共生推進プラン

外国人住民の増加や多国籍化などの多文化共生を取り巻く社会情勢の変化に対応するため、総務省が示す「地域における多文化共生推進プラン」に基づき、今年度内に市独自の多文化共生推進プランを策定します。